となりの会社はどうしてる？

職場の居心地WEB調査

2023年版

PLUS Furniture Company

もくじ

テーマ：リモートワーク時に感じている課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **6ページ**

あなたは、コロナ収束後も含めて今後、どの程度リモートワークを行っていきたいとお考えですか？

リモートワーク時、オフィスに出社した際よりも仕事の進捗に問題を感じることはありますか？（2021年／2023年調査比較）

リモートワーク時に感じる、仕事の進捗に関する問題は？（2021年／2023年調査比較）

リモートワークを行うことで、気持ちの面で問題を感じることはありますか？（2021年／2023年調査比較）

リモートワーク時に感じる、気持ちの面に関する問題は？

あなたが、オフィスでの「人とのつながり」に求めていることは何ですか？（2021年／2023年調査比較）

テーマ：コロナ禍前後『働きやすさ』の変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **13ページ**

あなたが、オフィスでの「人とのつながり」に求めていることは何ですか？（2021年／2023年調査比較）

あなたの働く職場で、コロナ禍前（2020年2月以前）と現在を比較して、以下それぞれの項目について変化があったかをお答えください。

コロナ禍前より「働きやすくなった」と感じる要因として挙げられるものを全てお選びください。

コロナ禍前より「働きにくくなった」と感じる要因として挙げられるものを全てお選びください。

もくじ

テーマ：連休明けの憂鬱をどう乗り切るか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **18ページ**

お盆休みや正月休みなどの長期休暇のあとに、「出社したくない」「休み明けの仕事が憂鬱だ」と思ったことはありますか。

連休明けの憂鬱を乗り切るために、あなたが行っている工夫やコツがあれば教えてください。

連休明けの初日、スムーズに業務を再開するにあたって、「オフィス出社」か「リモートワーク」を選べるとしたらどちらを選びますか。

連休明けの出社も憂鬱にならないような、「行きたくなるオフィス」にするためにはどんな要素が必要だと思いますか。

テーマ：昼休みを誰と一緒に過ごしたいか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **23ページ**

職場での昼休みの過ごし方についてお伺いします。あなたは、昼休みを誰と一緒に過ごしていますか？

あなたは、職場での昼休みを誰と一緒に過ごしたいと思いますか？

あなたの職場の居心地について、以下の項目をそれぞれ評価してください。

職場での昼休みをより過ごしやすくするために、どんな座席やスペース、制度などがあればいいと思いますか。

もくじ

テーマ：通勤時間・通勤を苦痛と感じるか ・・・

もくじ

テーマ：今年の忘年会の予定 ・・・

Theme リモートワーク時に感じている課題

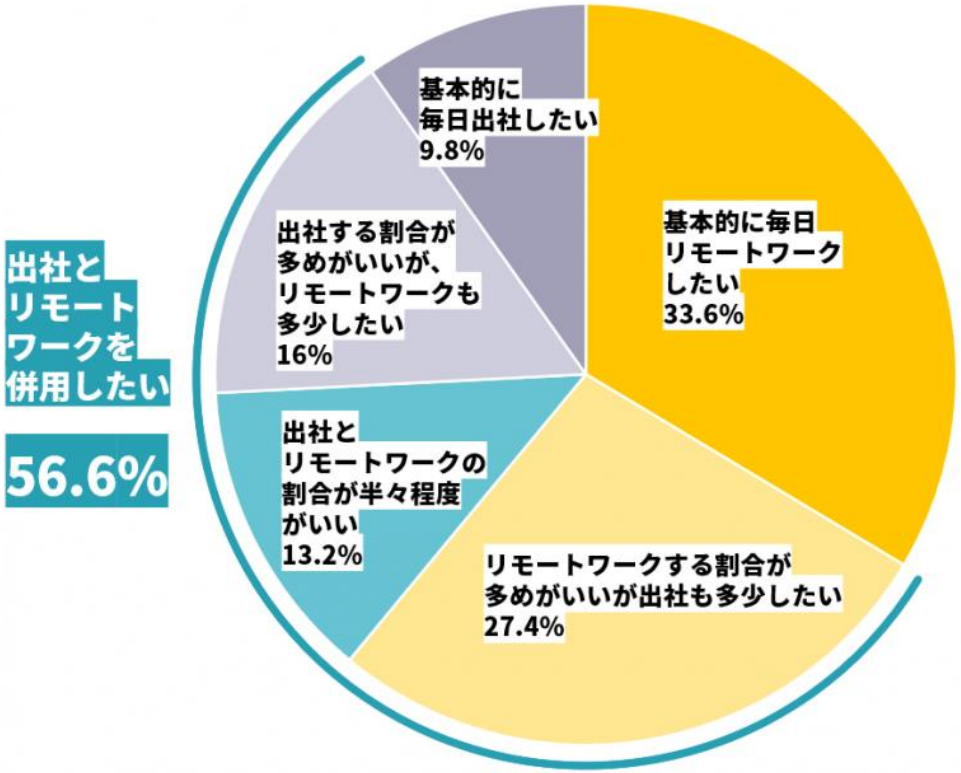
コロナ禍で急速に進んだリモートワーク。新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行されたことに合わせて、再度働き方が見直された企業も多いのではないでしょうか。

リモートワーク経験者を対象に「コロナ収束後、どの程度リモートワークを行いたいか？」を訊いたアンケートを実施。2021年と2023年の回答結果を比較しながら、「リモートワーク時に感じている課題」について改善や変化はあったかを見ていきます。

[アンケート実施情報]
方法：インターネット調査
回収日：【2021年調査】2021年6月8～11日／【2023年調査】2023年4月6日
対象：従業員数100名以上のオフィスで働く、デスクワークを含む業務を行う会社員、公務員
サンプル数：500人

あなたは、コロナ収束後も含めて今後、どの程度リモートワークを行っていきたいとお考えですか？

（n=500）



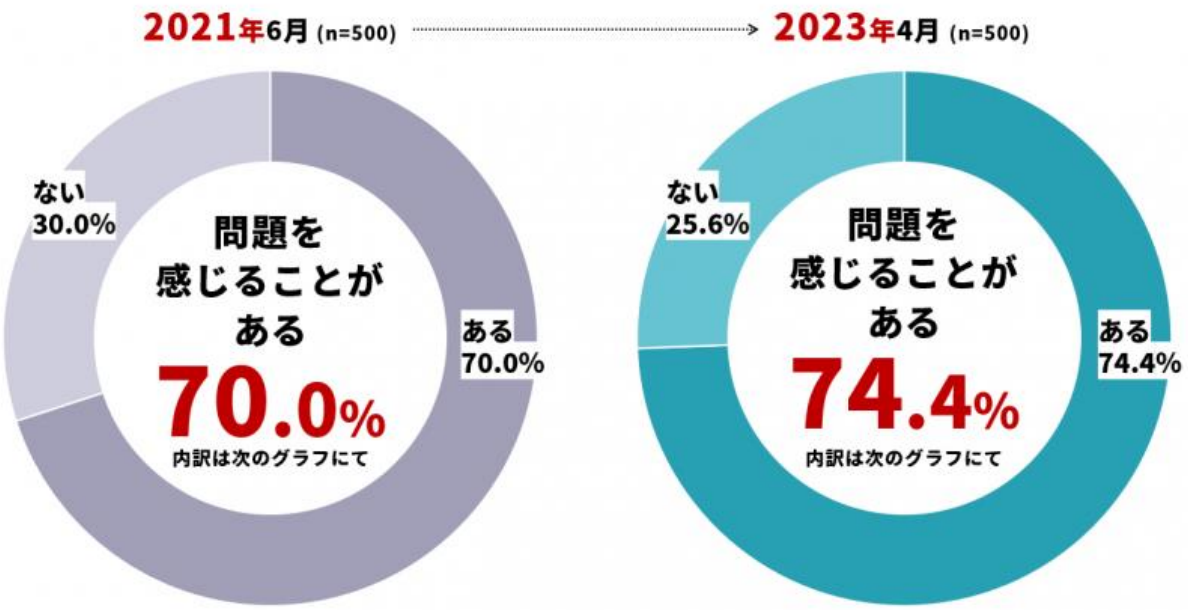
出社とリモートワークを併用したい

56.6 %

「基本的に毎日リモートワークしたい」と回答した人が33.6%、「基本的に毎日出社したい」と回答した人が9.8%。出社とリモートワークを併用したい趣旨の回答をした人の合計は56.6%という結果でした。

出社とリモートワークを併用した働き方＝ハイブリッドワークを望む回答が半数以上を占めました。「リモートワークのみ」を望む人は約3割、「出社のみ」を望む人は約1割という結果に。どちらか片方ではなく、出社とリモートワークの良いとこどりをしたいと考える人が多いようです。

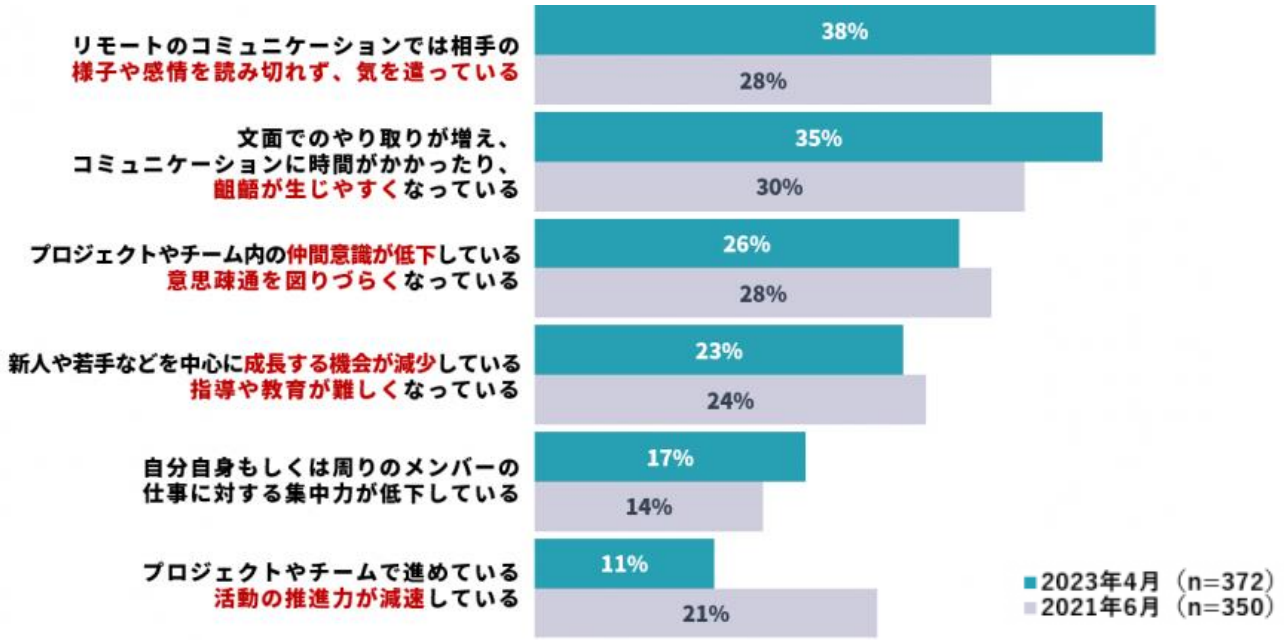
Q リモートワーク時、オフィスに出社した際よりも仕事の進捗に問題を感じることはありますか？（2021年／2023年調査比較）



「リモートワーク時、オフィスに出社した際よりも仕事の進捗に問題を感じることはありますか？」という質問に対し、2021年の調査では「問題を感じることがある」と回答した人が70%、2023年の調査では74.4%という結果でした。

調査前は、「リモートワークを続ける中でノウハウが蓄積され、解決していく問題も多い」と予想していましたが、「問題を感じることがある」と回答した人の割合は2023年の方が若干多い結果に。どのような問題を感じているのか、次の項目で内訳を見てみます。

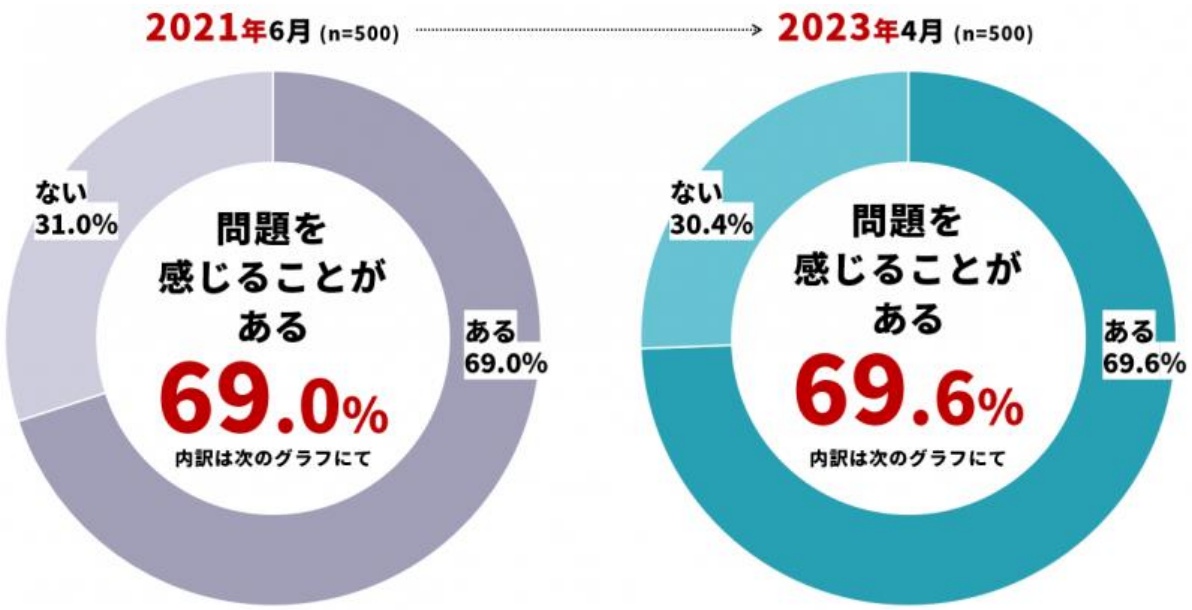
Q リモートワーク時に感じる、仕事の進捗に関する問題は？（2021年／2023年調査比較）



「相手の様子や感情を読み切れず、気を遣っている」という項目は、2年前と比較して10ポイント高く「活動の推進力が減速している」という項目は、2年前よりも10ポイント低い結果となりました。

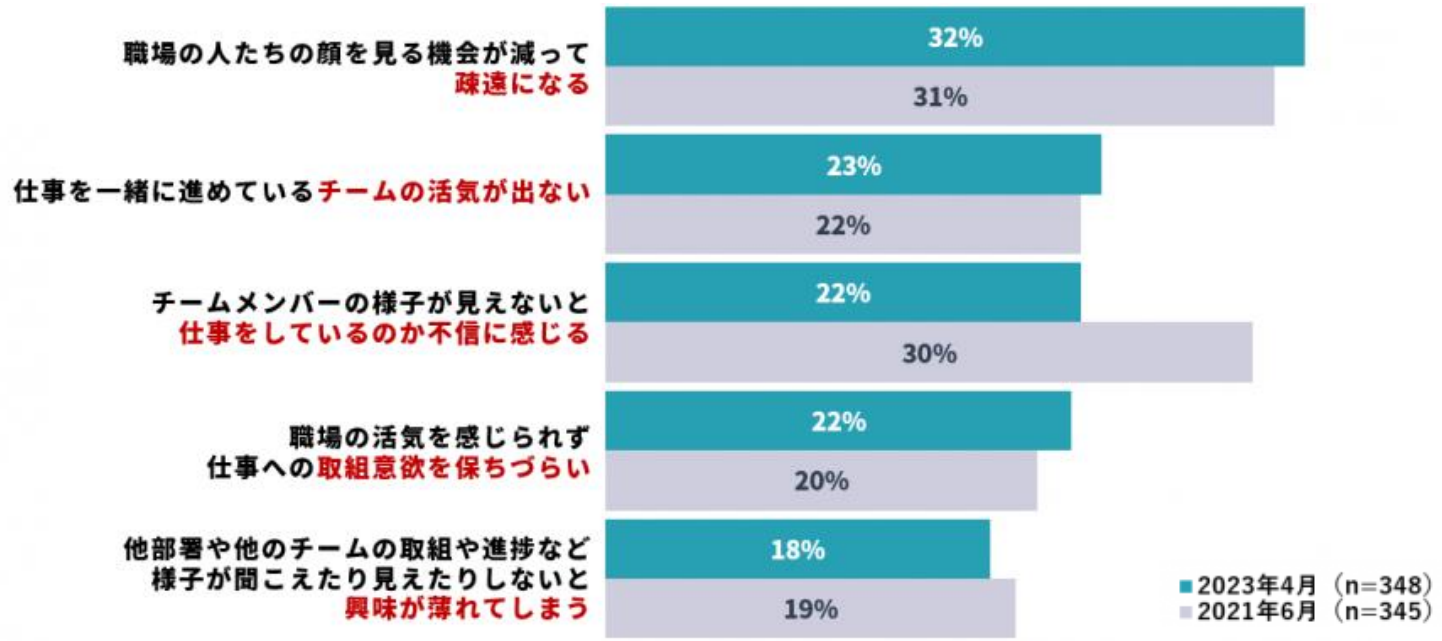
「相手の様子や感情を読み切れず気を遣う」の割合は増加しており、長期化するほどメンバーの状況や人柄を知るヒントが少なくなり、気を遣ってしまうのかもしれません。反対に「活動の推進力が減速している」は10ポイント減少し、リモートワーク下で活動を推進するノウハウが蓄積されてきたと受け取れます。

Q リモートワークを行うことで、気持ちの面で問題を感じることはありますか？（2021年／2023年調査比較）



「リモートワークを行うことで、気持ちの面で問題を感じることがありますか？」という質問に対し、2021年の調査では「問題を感じることがある」と回答した人が69.0％、2023年の調査では69.6％という結果でした。

リモートワーク時に感じる、気持ちの面に関する問題は？

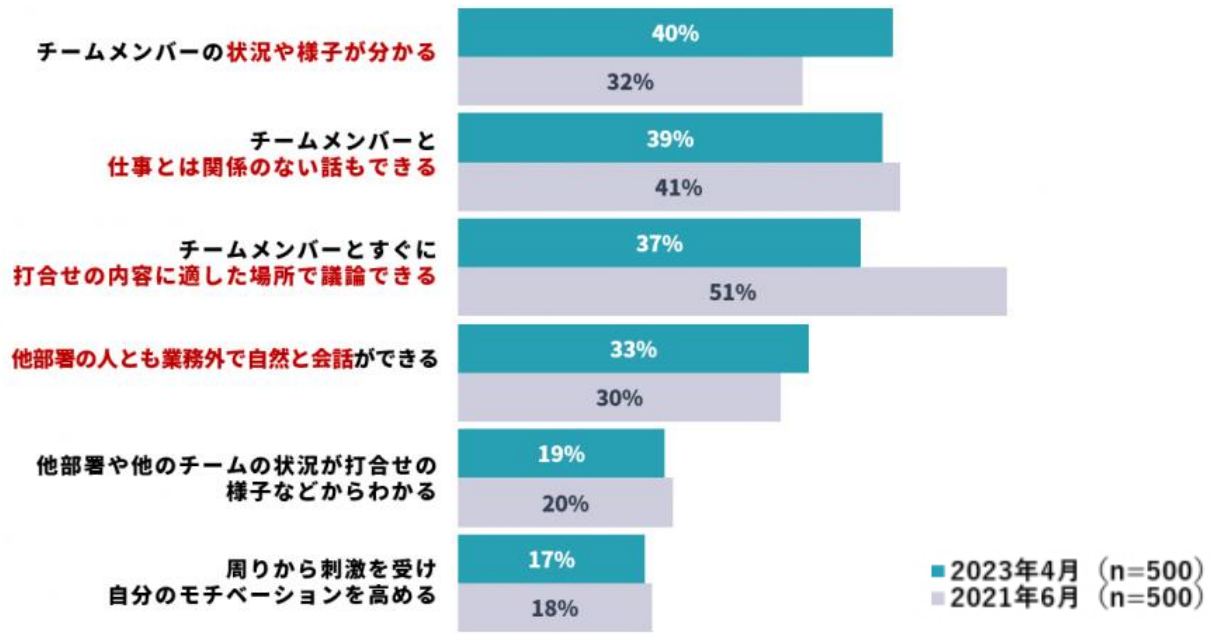


「顔を見る機会が減って疎遠になる」という項目が、’21年 / ’23年共に最も多くの回答を集めました。

「仕事をしているのか不信に感じる」というは、’21年と比較して’23年では8ポイント低下しています。

相手の状況が見えないことによる「不信感」は、2年間の中で解決傾向にあることが伺えます。一方で、「顔を見る機会が減って疎遠になる」は’21年 / ’23年共に最も多くの回答を集めており、「人とのつながり」の部分をリモートワークの課題ととらえている人が多いことが伺えます。

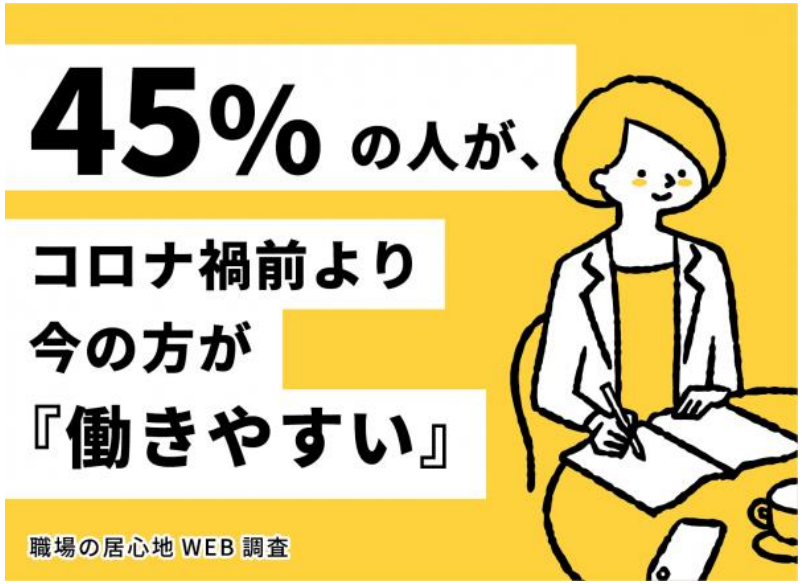
あなたが、オフィスでの「人とのつながり」に求めていることは何ですか？（2021年／2023年調査比較）



‘21年調査では「打合せの内容に適した場所で議論できる」が最も多くの回答を集めていましたが、’23年調査では14ポイント減少。一方「状況や様子が分かる」は8ポイント増加しました。

‘21年調査では半数以上の人が「打合せ」に関心を寄せていましたが、’23年調査では13ポイント減少。一方で「様子が分かる」が増加していることから、打合せに関する課題は解消傾向にあり、オフィスでは「他のメンバーの働く様子を肌で感じられること」がより重要視されていると予想できます。

Theme コロナ禍前後『働きやすさ』の変化

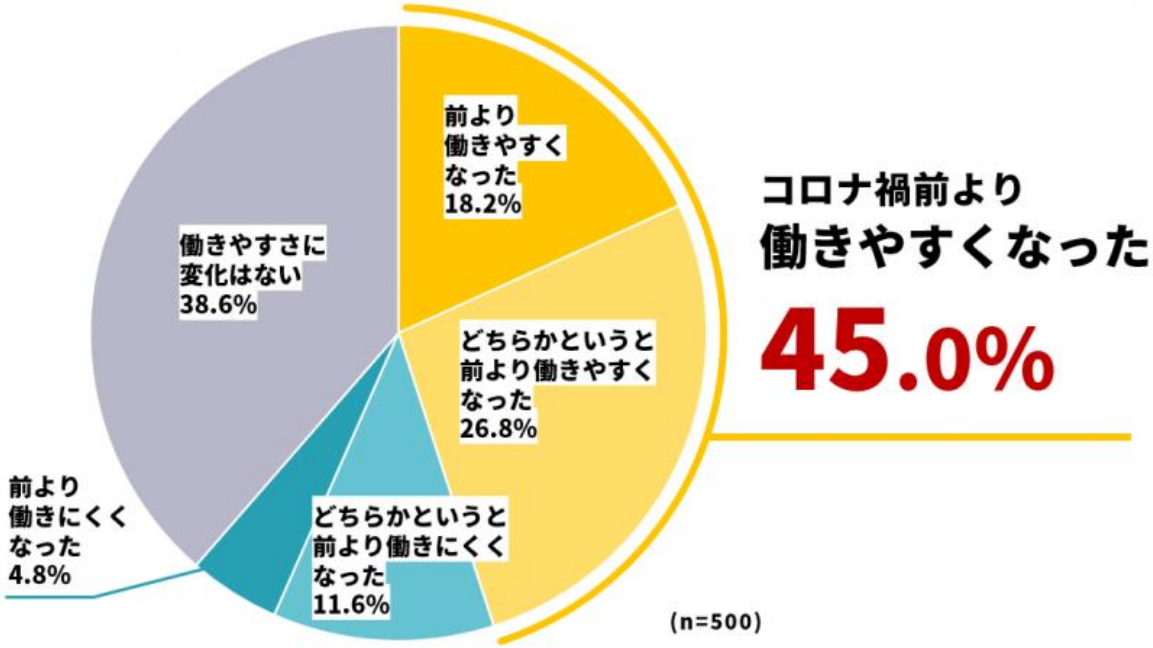


新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」に移行されてから約2か月が経ち（調査実施当時）『アフターコロナ』の働き方が定着してきた企業も多いのではないでしょうか。

勤続年数が3年以上の方を対象に「コロナ禍前（2020年2月以前）と現在（2023年6月）を比較して、『働きやすさ』に変化はあったか？」を尋ねたアンケートを実施。「今後どのように改善されればより働きやすくなると思うか」という問いへの回答もご紹介します。

[アンケート実施情報]
方法：インターネット調査
回収日：2023年6月20日
対象：従業員数100名以上のオフィスで働く、デスクワークを含む業務を行う勤続年数3年以上の会社員、公務員
サンプル数：500人

あなたが、オフィスでの「人とのつながり」に求めていることは何ですか？（2021年／2023年調査比較）

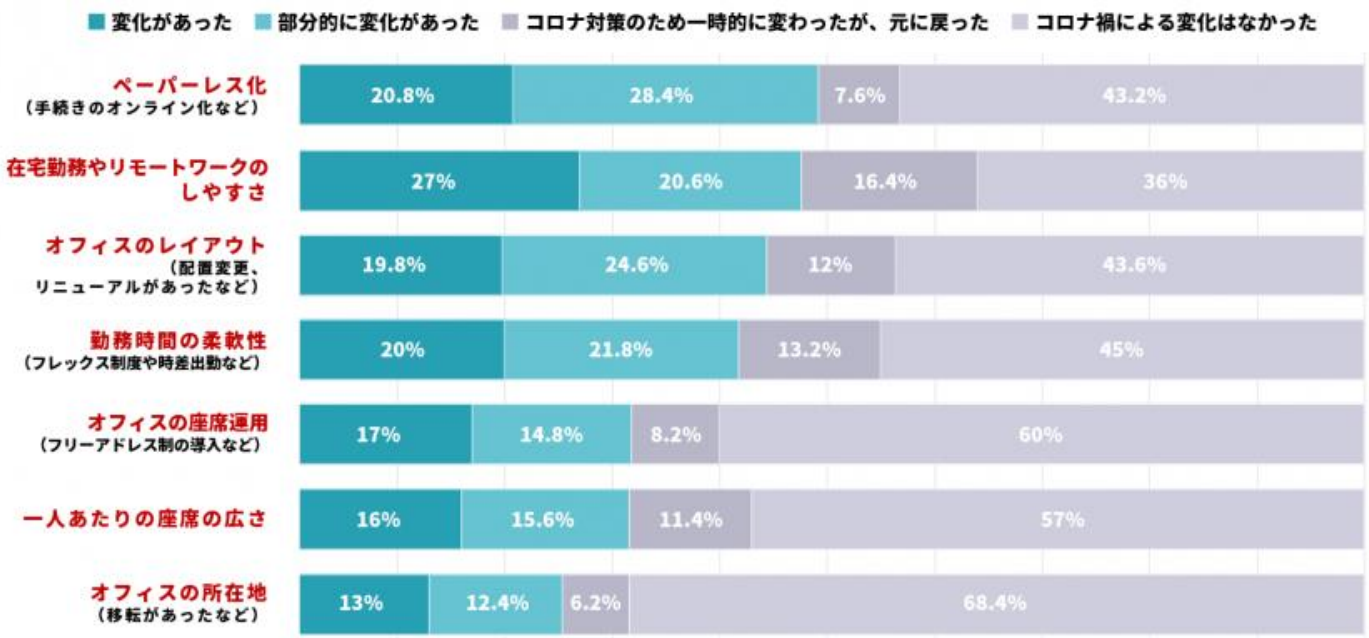


「前より働きやすくなった」「どちらかというと前より働きやすくなった」の合計が45.0%。「前より働きにくくなった」「どちらかというと前より働きにくくなった」の合計が16.4%。「働きやすさに変化はない」と回答した人は38.6%という結果でした。

「コロナ禍前より働きやすくなった」と感じている人が約半数と最も多い結果となりました。

あなたの働く職場で、コロナ禍前（2020年2月以前）と現在を比較して、以下それぞれの項目について変化があったかをお答えください。

（n=500）



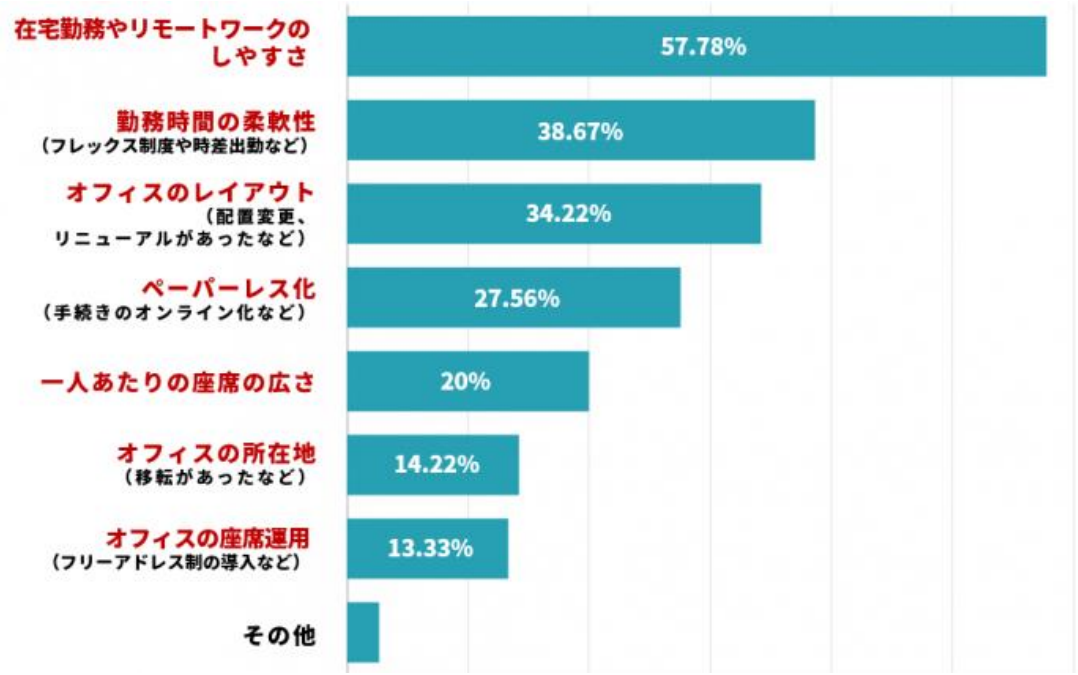
「変化があった」「部分的に変化があった」の合計値上位3項目は、「ペーパーレス化」「在宅勤務やリモートワークのしやすさ」「オフィスのレイアウト」となり、3年間で見直された職場が多かったようです。

どの項目も「コロナ禍が要因である」と一概には言いきれないため（オフィスの所在地などは特に）、あくまで「3年の間で変化があったかどうか」を尋ねたアンケート結果としてご覧いただければと思います。

※また、コロナ禍前からリモートワークしていた場合「変化はなかった」となるため、純粋なリモートワーク制度導入企業の割合を示すものではありません。

コロナ禍前より「働きやすくなった」と感じる要因として挙げられるものを全てお選びください。

（n=225）

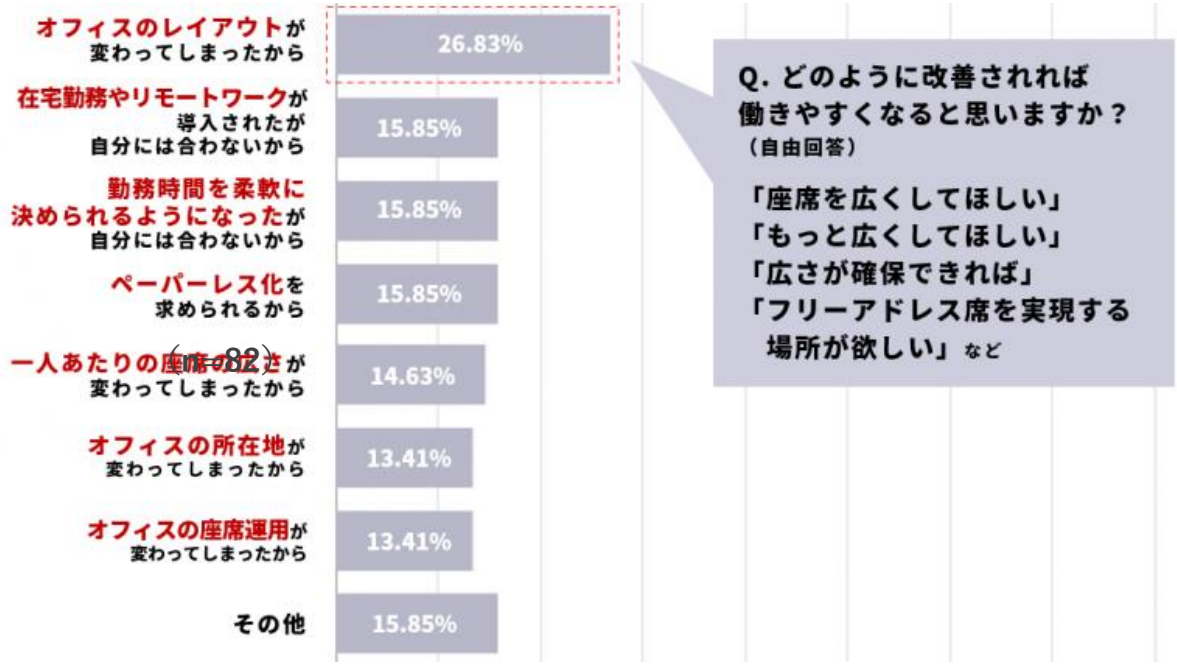


「働きやすくなった」と回答した方にその要因を複数回答で訊いたところ「在宅勤務やリモートワークのしやすさ」が57.78％、「勤務時間の柔軟性」が38.67％、「オフィスのレイアウト」が34.22％となりました。

「在宅勤務やリモートワークのしやすさ」が過半数と多い結果に。一方で「オフィスのレイアウト」が上位にあることから、『働きやすさ』の判断においてはリモートワークのしやすさが重視される一方で、出社した際のオフィス環境も大きな判断材料になっていることがうかがえます。

コロナ禍前より「働きにくくなった」と感じる要因として挙げられるものを全てお選びください。

（n=82）



「働きにくくなった」と回答した方にその要因を複数回答で訊いたところ、回答は分散しほぼ横並びの結果となりました。その中でもポイントの高かった「オフィスのレイアウト」について、どのように改善されれば働きやすくなるかを訊いたところ（※）、「座席を広くしてほしい」「フリーアドレス席を実現する場所がほしい」など『広さ』に関するコメントが多く集まりました。 ※Q4の自由回答から抜粋。

「オフィスのレイアウト」と答えた方は執務空間の広さ・ゆとりに改善を求める声が多く挙がっていました。

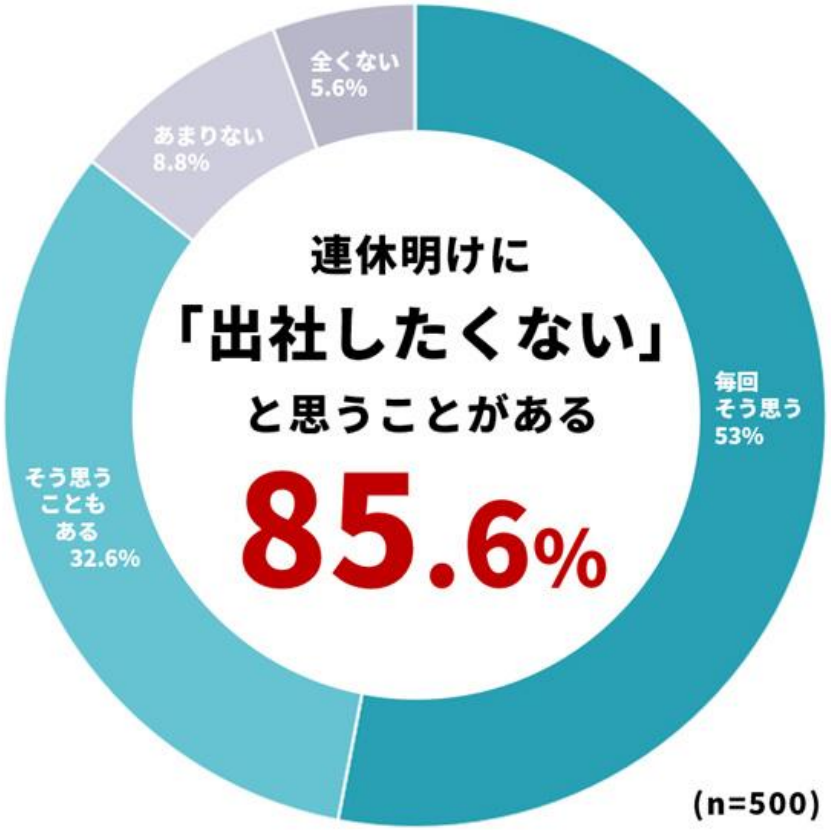
Theme | 連休明けの憂鬱をどう乗り切るか

お盆休みを目前に控えると、帰省や旅行を計画されている方も多いのではないでしょうか。
連休のあとに待っているのは、連休明けの出社……。

勤続年数1年以上の方を対象に「連休明けの憂鬱をどう乗り切るか」を尋ねたアンケート結果を実施。
また、「連休明け初日は『オフィス出社』と『リモートワーク』のどちらを選びたいか」などもあわせて訊いた結果をご紹介します。

[アンケート実施情報]
方法：インターネット調査
回収日： 2023年7月21日
対象：従業員数100名以上のオフィスで働く、デスクワークを含む業務を行う勤続年数1年以上の会社員、公務員
サンプル数：500人

お盆休みや正月休みなどの長期休暇のあとに、「出社したくない」「休み明けの仕事が憂鬱だ」と思ったことはありますか。



85.6 %

連休明けに「出社したくない」と思うことがあるかを訊いたところ、「毎回そう思う」「そう思うこともある」の合計が85.6%。「そう思うことはあまりない」「そう思うことは全くない」の合計は14.4%という結果でした。

大多数の人が連休明けの出社を憂鬱だと感じているようです。

Q 連休明けの憂鬱を乗り切るために、あなたが行っている工夫やコツがあれば教えてください。

■「出社したくない」と思うことがある方

「**週末に楽しい予定を入れて**、それに向けて頑張る」

「**連休前に面倒な仕事は終わらせておく**。連休最終日はなるべくゆっくり過ごす」

「**会社に行く前日の夜は早寝**する。体力をちゃんと充電して気分もスッキリ仕事に出かけるため」

「仕事後に**美味しいものを食べる**予定を入れておき、それを楽しみに乗り切る」

「何も考えないで頭を空っぽにして出社する。**会社に着けば後は何とかなる**」

■「出社したくない」と思うことはない方

「**明るい気持ち**でいようと努める」

「特に何も特別なことはしていない」

「**気持ちの持ちよう**」

「**楽しい仕事**をする」

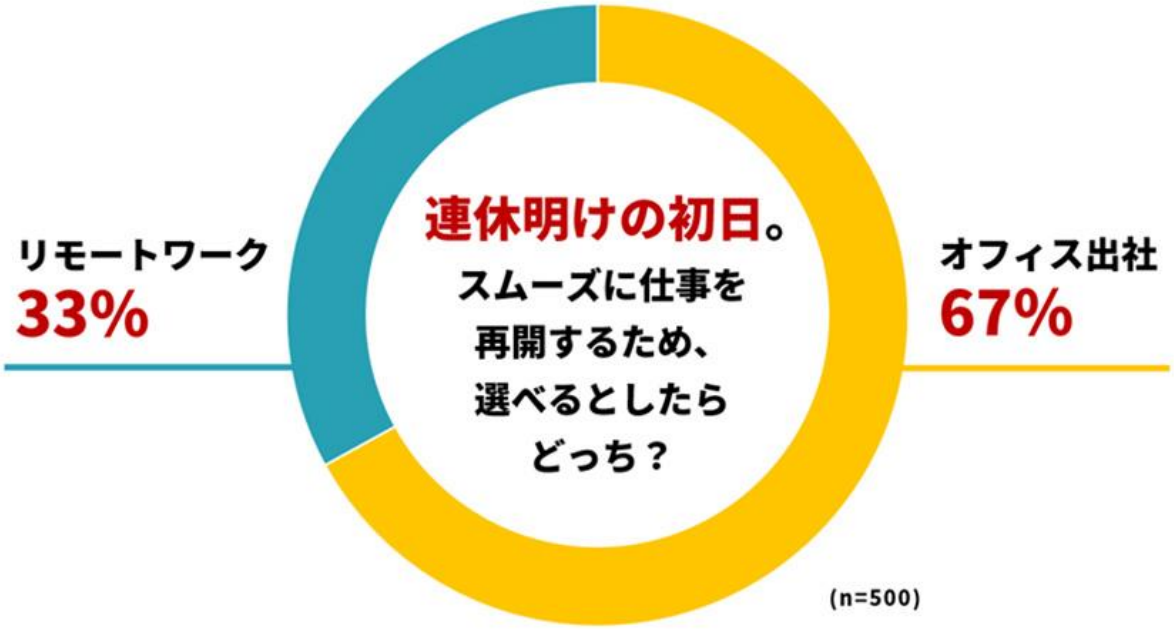
「憂鬱に思ったことが無いので、コツは無い」

「憂鬱にならないが、休日をしっかり楽しんでちょっとしたことは気にならないくらい楽しんで、仕事中に楽しかったことを思い出しながら楽しい気持ちで**ポジティブに仕事**できるようにする」

その憂鬱を乗り越え、仕事モードに戻るために行っている工夫やコツを訊いたところ、憂鬱に感じることが「ある」と回答した人と「ない」と回答した人の温度差が顕著にあらわれる結果となりました。

前者は「気合いで乗り切るしかない」「次の週末まで我慢」といった方向性の回答が多く、仕事以外の楽しみを糧にして乗り切る人が多い印象を受けました。対して後者は「特別なことはしていない」という回答が目立ち、仕事自体を楽しむといったポジティブな方向性のコメントも見受けられました。

連休明けの初日、スムーズに業務を再開するにあたって、「オフィス出社」か「リモートワーク」を選べるとしたらどちらを選びますか。

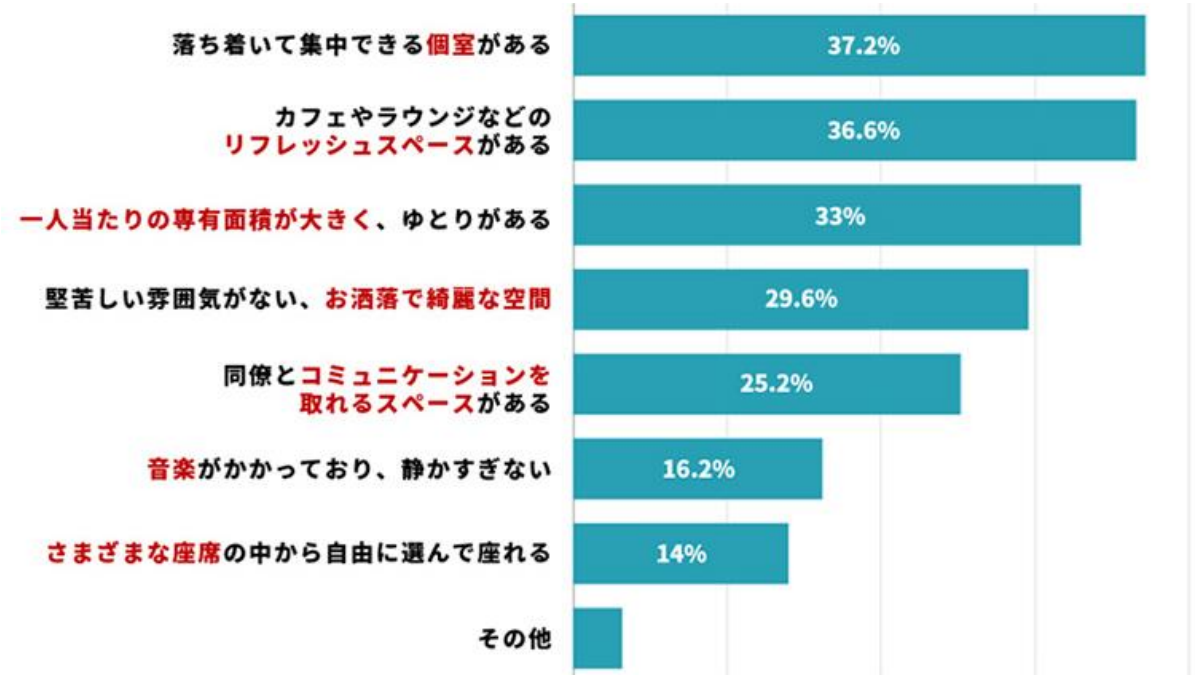


連休明けの初日、スムーズに仕事を再開するためにどちらを選ぶかを訊いたところ、「オフィス出社」が67%、「リモートワーク」が33%という結果となりました。

理由を見てみると、「オフィスに行き、人と会うことで気持ちが切り替わる」という回答が多く集まりました。連休明けの憂鬱な気分を、同僚たちと顔を合わせることで乗り切っている人が多いようですね。対してリモートワークを選んだ人は、「通勤時間の削減」や、「最初は在宅勤務にして徐々に慣らしたい」といった回答が多く集まりました。

連休明けの出社も憂鬱にならないような、「行きたくなるオフィス」にするためにはどんな要素が必要だと思いますか。

（n=500／3つまで選択可）



「行きたくなるオフィス」に必要な要素について複数回答で訊いたところ、「落ち着いて集中できる個室がある」「カフェやラウンジなどのリフレッシュスペースがある」「一人当たりの専有面積が大きく、ゆとりがある」が上位3つに選ばれました。

1位と2位は一見対照的に思えますが、前問でも「切り替え」という言葉が出ていたように、一人で集中できる席と、リラックスできる空間の両方が求められているようです。 また、3位からはオフィスに出社するからには広く快適な作業スペースを確保したいと考える方が多いことが伺えます。

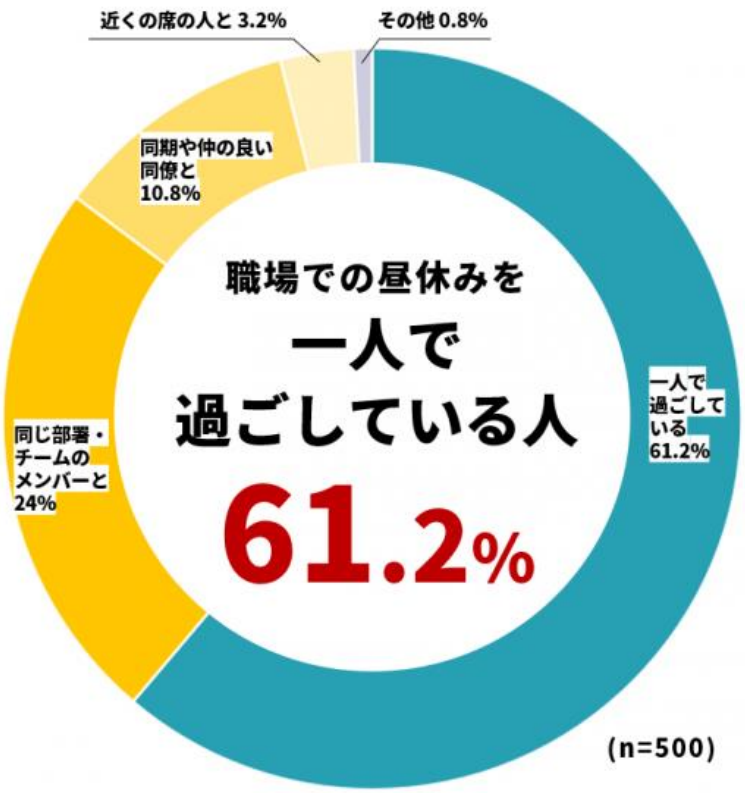
Theme | 昼休みを誰と一緒に過ごしたいか

皆さんは、職場での昼休みをどのように過ごしていますか？「同僚たちと一緒に食事を取って、楽しく過ごしたい」と考える方もいれば、「一人が好き」「一人になりたい」と考える方も多いのでは。

勤続年数1年以上の方を対象に「昼休みを誰と一緒に過ごしたいか」を尋ねたアンケート結果を実施。また、「『一人派』の人と『誰かと一緒派』の人とで、自分が働く職場の居心地に関する評価に違いはあるか」についても併せて調査しました。

[アンケート実施情報]
方法：インターネット調査
回収日：2023年8月9日
対象：従業員数100名以上のオフィスで働く、デスクワークを含む業務を行う勤続年数1年以上の会社員、公務員
サンプル数：500人

職場での昼休みの過ごし方についてお伺いします。
あなたは、昼休みを誰と一緒に過ごしていますか？

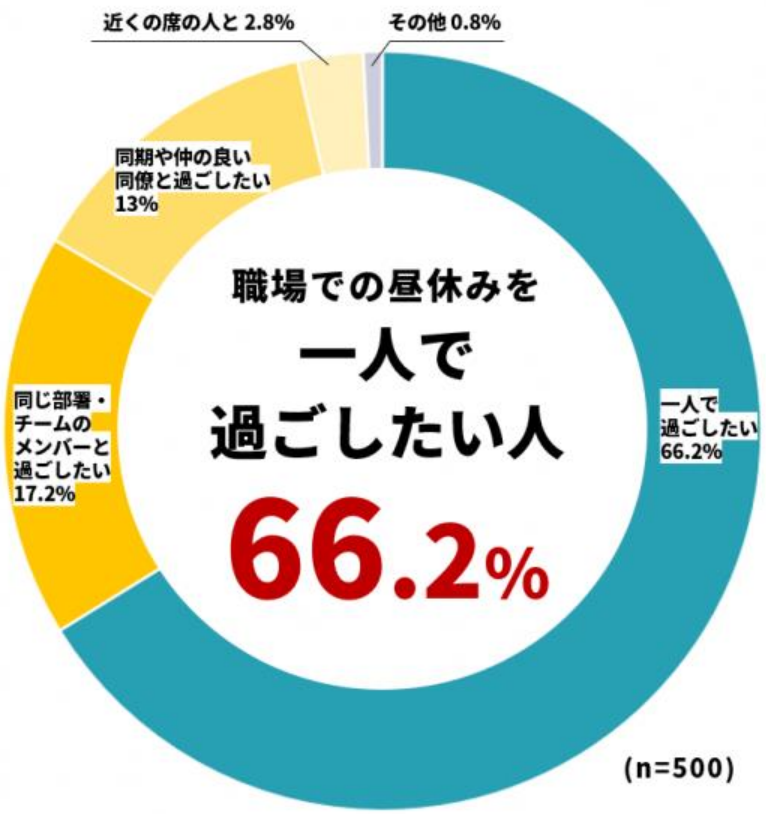


61.2 %

職場での昼休みを「一人で過ごしている」と回答した人が61.2%。「同じ部署・チームのメンバーと過ごしている」「同期や仲の良い同僚と過ごしている」「近くの席の人と過ごしている」と回答した人（＝誰かと一緒に過ごしている人）の合計は38%という結果でした。

約6割と、半数以上の人が昼休みを一人で過ごしているようですね。

あなたは、職場での昼休みを誰と一緒に過ごしたいと思いますか？

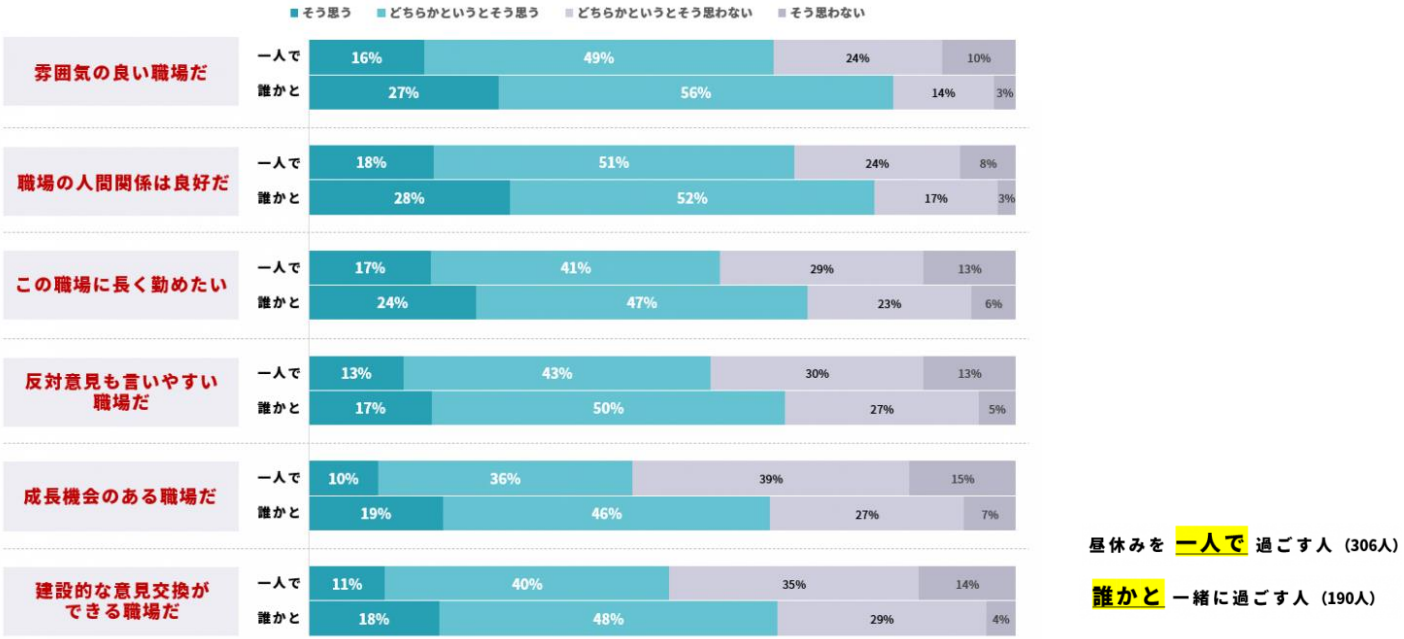


66.2 %

職場での昼休みを「一人で過ごしたい」と回答した人が66.2%。「同じ部署・チームのメンバーと過ごしたい」「同期や仲の良い同僚と過ごしたい」「近くの席の人と過ごしたい」と回答した人の合計は33%という結果でした。

「一人で過ごしたい」理由を訊くと「周りに気を遣わない」「昼寝したい」「SNSやゲーム、ネットをしたい」といった回答が多く集まりました。「誰かと一緒に過ごしたい」理由は「雑談をして職場メンバーの人となりを知りたい」「チームワークが図れる」等、仕事と関係ないカジュアルなコミュニケーションを取ることで業務が円滑に進むと考えている人が多いようです。

あなたの職場の居心地について、以下の項目をそれぞれ評価してください。



全ての項目について、「一人で過ごしている人」よりも「誰かと一緒に過ごしている人」の方が「そう思う」「どちらかというとそう思う」の割合が高い結果となり、昼休みを一人で過ごしている人よりも、誰かと一緒に過ごしている人の方が、自分が働く職場の雰囲気や居心地を高く評価していることがわかりました。

誰かと一緒に過ごしたい派の人は仕事と関係ないカジュアルなコミュニケーションを積極的に取ることで、働きやすい環境にすることを意識している人が多く見受けられるため、その影響であると考えられます。

Q 職場での昼休みをより過ごしやすくするために、どんな座席やスペース、制度などがあればいいと思いますか。

■昼休みを「一人で過ごしたい人」

「昼寝スペースが欲しい」

「ブースのように一人の空間が確保されると嬉しい」

「個室があれば一番いいけど 座席でも間仕切りがあればいいと思う」

「ちょっと良いコーヒーサーバー」

「1人で座れるような窓向きの椅子」

「一人で過ごしたい人も、複数人で過ごしたい人も休めるように、広さが必要かと感じます」

「リクライニングチェア、ベッド、ハンモックのようなもの」

■昼休みを「誰かと一緒に過ごしたい人」

「ラウンジエリアがほしい」

「会社には、社員が憩えるキャフェテリアが併設されているので現状維持でよい」

「仮眠スペースや３人掛けくらいのソファが欲しい」

「皆で輪になって食べられるスペースがあることや、少しずつ時間をずらして昼食をとれる制度があると嬉しい」

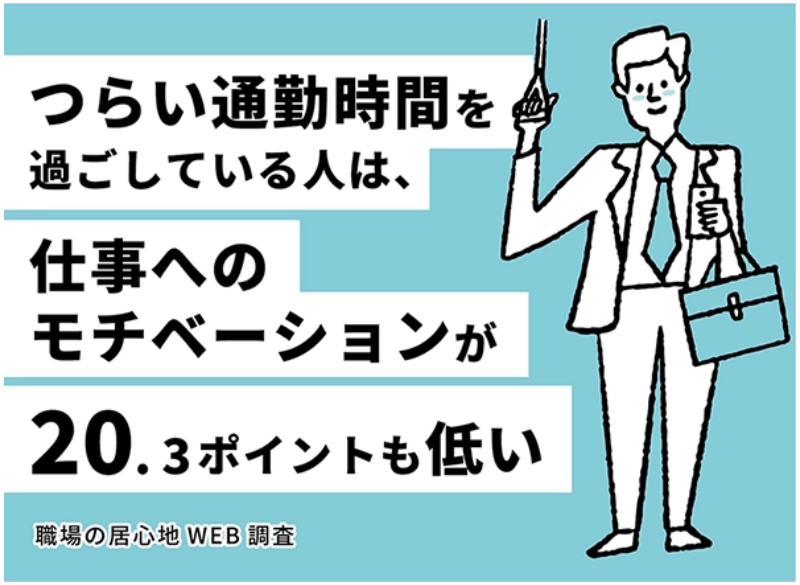
「コミュニケーションが取りやすい施設」

「軽い運動やストレッチができるスペース」

「一人で過ごしたい」人からは、昼寝スペースや個室など、一人でリラックス・リフレッシュできる空間の要望が多く挙がりました。

一方、「誰かと一緒に過ごしたい」人からは、カフェスペースやラウンジエリアなど、コミュニケーションの取りやすさを重視した回答が目立ちました。双方に共通して挙がっていたのは、「（オフィス自体に）広さが欲しい」「広いラウンジが欲しい」など、空間の広さに関する要望でした。

Theme 「通勤時間・通勤を苦痛と感じるか」

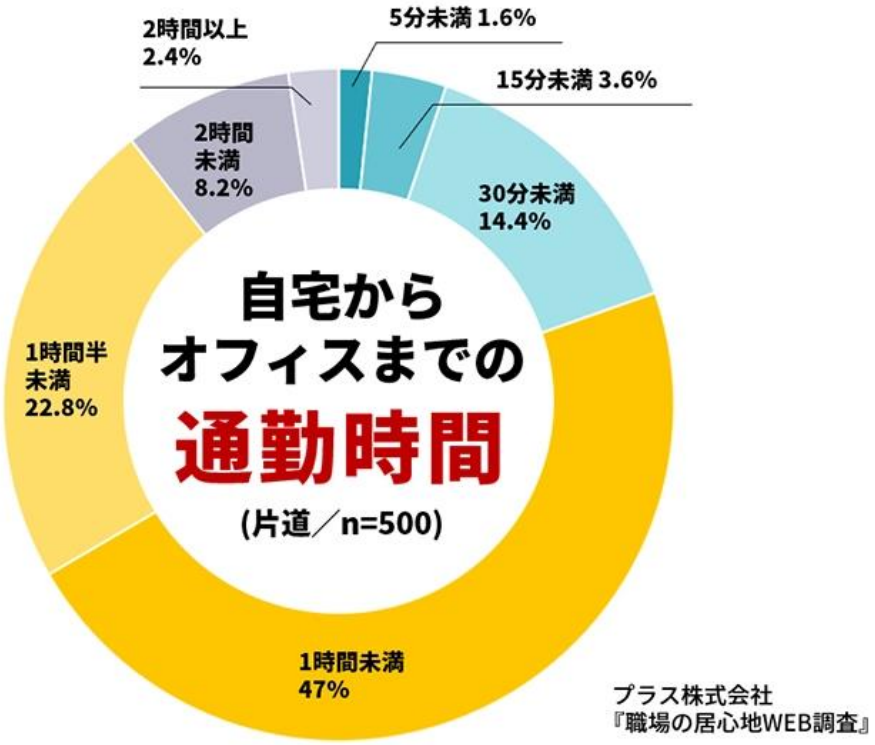


皆さんは、日々の通勤にどのくらいの時間をかけていますか？コロナ禍で在宅勤務を経験したあと、オフィス出社に戻った方の中には、「通勤がつらい……」と以前より強く感じるようになった方も多いのでは。

電車・バス通勤を行っている人を対象に「通勤にかかる所要時間」や「通勤時間を苦痛と感じるか」などを尋ねるアンケートを実施。また、通勤時間を『苦痛と感じる人』と『感じない人』とで、仕事へのモチベーションなどに違いがあるかを調べました。

[アンケート実施情報]
方法：インターネット調査
回収日： 2023年9月21日
対象：電車・バスを主な通勤手段とする、デスクワークを行う日本全国の会社員・公務員
サンプル数：500人

出社時の通勤時間についてお答えください。
自宅から職場まで、片道でどのくらいかかりますか。

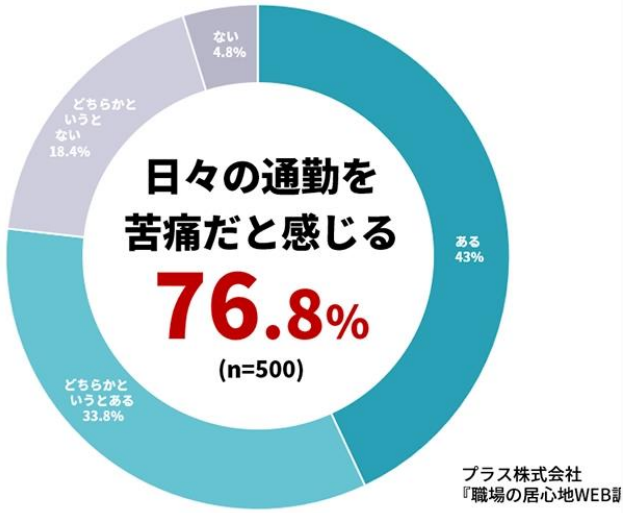


最も多いのは「1時間未満」（47%）

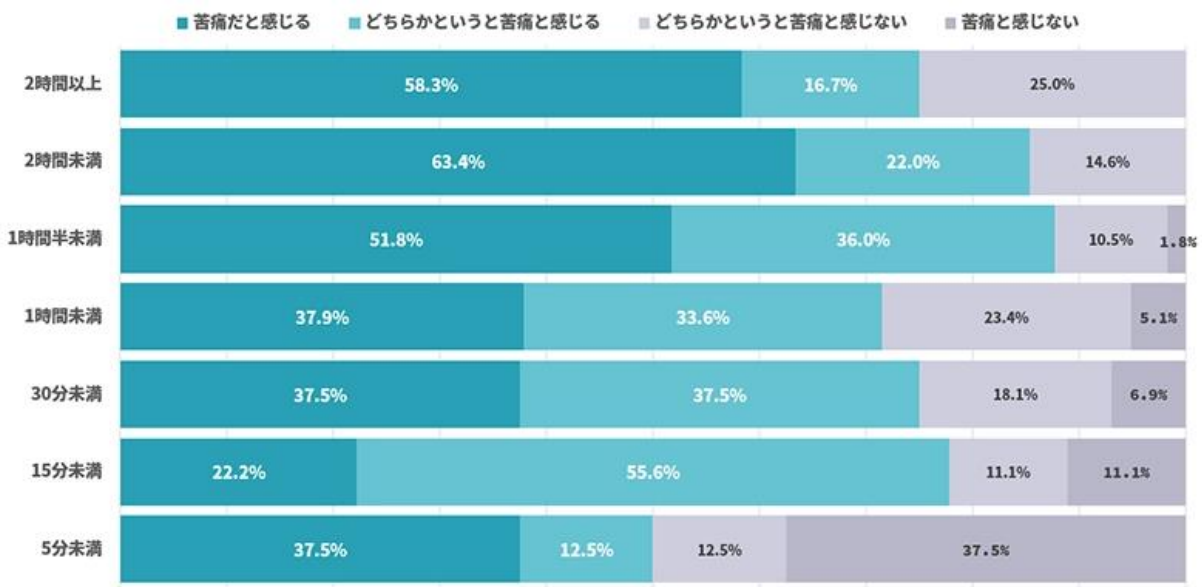
事前調査で「電車・バスが主な通勤手段」と回答したオフィス勤務者500名に対し、自宅からオフィスまでの片道の通勤時間を訊いたところ、最も多かったのは「1時間未満（＝30分以上1時間半未満）」で半数近く、次に多かったのは「1時間半未満（＝1時間以上1時間半未満）」という結果でした。

あなたは、日々の通勤時間を「苦痛だ」と感じることはありますか。

（n=500）



プラス株式会社
『職場の居心地WEB調



※割合の数字は四捨五入されているため、合計が100%にならない場合があります。

日々の通勤時間を「苦痛だ」と感じる方の合計は76.8％という高い結果となりました。

通勤時間ごとに分けて「苦痛だ」と感じている人の割合を見ていくと、通勤時間が長くなるほど「苦痛だと感じる」（＝濃い青色）の割合が増え、「苦痛と感じない」（＝濃いグレー色）は通勤時間が長くなるほど減少し、最も通勤時間の長い群では0人という結果になっています。

全体的に「苦痛だと感じる」割合が高くなっていますが、片道の通勤時間が1時間を超えると、5割以上の人がはっきりと「苦痛」を感じているようですね。

あなたは通勤時間、何をして過ごしていますか？
少しでも快適に過ごすための工夫などあればお聞かせください。

「**人間観察をして、楽しむ**」
「景色や周りの客を見ながら考え事をしている」
「イヤホンをして好きなYouTubeやX（Twitter）の動画をみる。もしくはゲームする。これで**満員電車にいるのを紛らわしている**」
「好きなアーティストの曲を聴いて**テンションをあげる**。好きなMLBの試合を動画配信で観る」
「タブレットで、ニュースサイトや**ポイ活**や電子書籍を見ている」
「行きは睡眠 帰りは読書」

「**寝る**、スマホ見てる、電車内の広告見てる」
「アイポッドで**語学のCDを聞いたり**、本を読んだりしている」
「duolingoで韓国語の勉強 TOEICのアプリで勉強 好きな音楽を聴く」
「**運動不足なので、電車内では立ってます**。かかとを少し浮かせて、つま先立ちになり代謝を上げたりしてます」
「乗車時間が長くなっても良いので**満員電車に乗らない**」

スマホでニュースやSNSを見たり、好きな音楽や動画で気を紛らわせるというコメントも。
『ポイ活』や語学の勉強にあてるなど、移動時間を有効活用する工夫も見受けられました。

通勤時間を「苦痛と感じる人」と「感じない人」、それぞれにお伺いします。以下の項目についてお答えください。

仕事へのモチベーションなどについて訊いたところ、全項目において通勤時間を「苦痛と感じる人」が「感じない人」よりも低い結果となりました。

「もともと会社に貢献したい意欲が高いので通勤時間を苦痛と感じない」のか、「通勤のストレスが働く意欲を削いでいる」のかは今回の結果だけでは判断できませんが、「通勤時間が長いほど苦痛を感じている」という前問の結果と照らしても、長すぎる通勤時間が従業員の気持ちに影響を与えることは確かと言えそうです。

Q 「わざわざオフィスに出社するからには、会社側に整備してほしい」と思うものや、「こんなオフィスなら行ってもいい」と感じるオフィスのイメージはありますか。

■福利厚生について

「ドリンクバー、ケータリングがある会社」

「フリードリンクを期待したいところ」

■オフィス空間やレイアウトについて

「かっこよく仕事ができるようなおしゃれなオフィス」

「清潔感のある整頓された室内にして欲しい。デスクの間隔をあけて欲しい」「日当たりが良くて、事務所が綺麗。トイレが綺麗で、休憩スペースがある」

■制度について

「出社時間が選べると良い。コアタイムを設けるといい」「仕事の都合に合わせたフレックスな出社」

■デスクやチェアについて

「一般社員でも肩こりなどになりにくいデスク＆チェアで仕事ができる」「椅子をカスタマイズさせてほしい」

■雰囲気やコミュニケーションについて

「コミュニケーションを図りやすくする仕組みが欲しい」「社員同士で気軽なコミュニケーションする場所があれば嬉しい」

■昼寝や仮眠について

「短時間でも休息できる仮眠室がほしい」

■空調について

「温度と湿度がちょうど良く、静かだったら、出社する価値が大いにある」

福利厚生の面ではフリードリンクがほしいという声が、制度の面では時差出勤やフレックスで満員電車を避けたいという声が多く挙がっていました。

オフィスについては、綺麗で整理整頓された空間を望む声のほか、コミュニケーションが取りやすい場所の充実、仮眠できる場所や制度、席間隔を空けて広いデスクにしてほしいなどの意見が多く見受けられました。

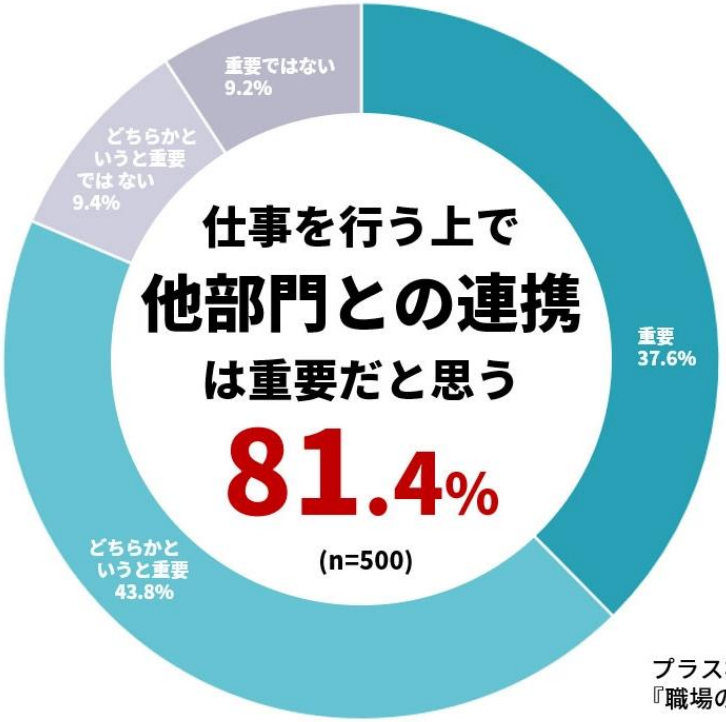
Theme 部門間コミュニケーション

皆さんの職場では、「部門間コミュニケーション」がどのくらい活発に行われていますか？

スムーズに業務を行う上で他部門との連携が重要であることはわかっていても、実際には交流の機会を持てていない……という方も多いのではないでしょうか。
「部門間コミュニケーションが充分に取れているか」を尋ねるアンケート調査を実施。併せて、「社内コミュニケーション促進施策」の実施状況と、部門間コミュニケーションの満足度に関連があるかなどを調べました。

[アンケート実施情報]
方法：インターネット調査
回収日：2023年10月17日
対象：日本全国のデスクワークが中心の会社員・公務員（フルリモートワークを除く）
サンプル数：500人

あなたは、仕事を行う上で、「他部門との連携」は重要だと思いますか。



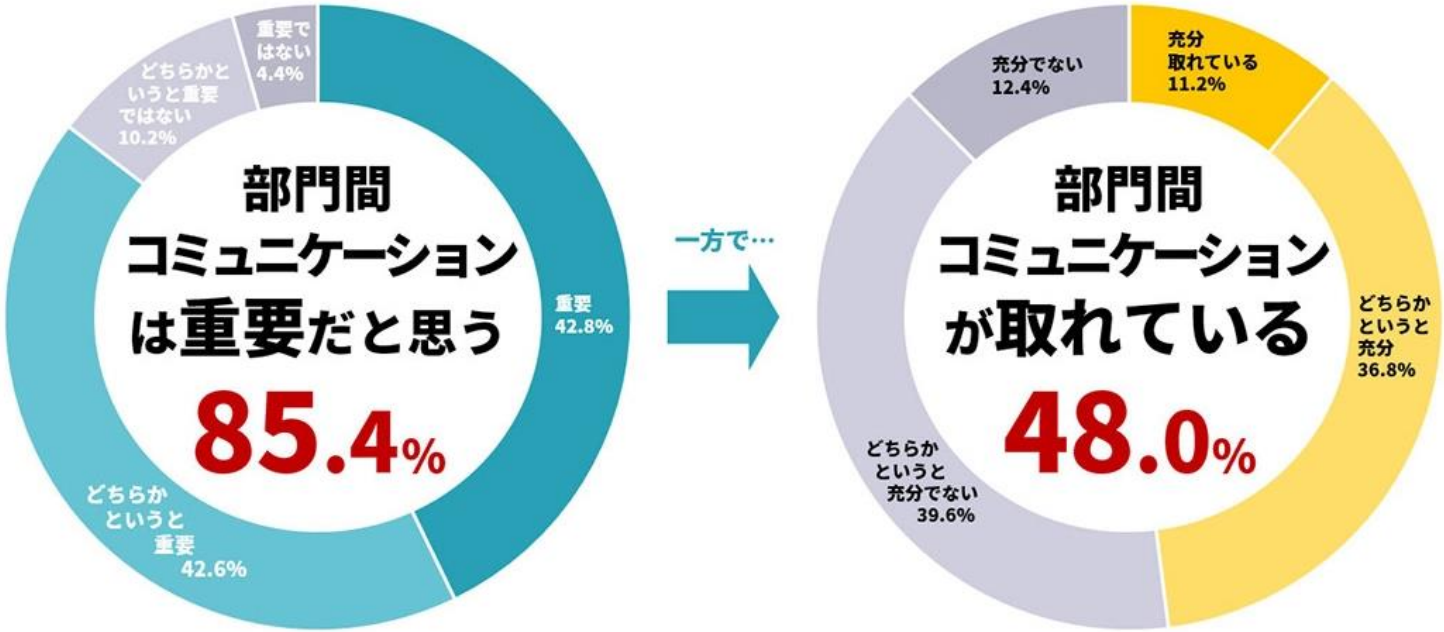
プラス株式会社
『職場の居心地WEB調査』

81.4 %

仕事を行う上での部門間連携の重要性について質問したところ、「重要」「どちらかというと重要」の合計が81.4％と大きな割合を占めました。

スムーズに仕事を進めるにあたって、日頃からの「部門間コミュニケーション」は重要だと思いますか。
また、実際に「部門間コミュニケーション」が充分に取れていると思いますか。

（n=500）

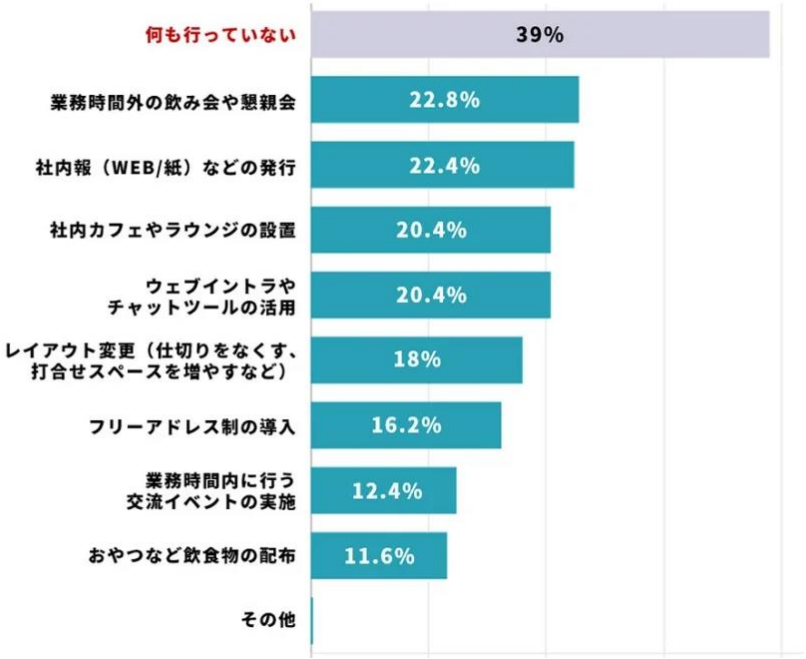


コミュニケーション面について尋ねたところ、「部門間コミュニケーションは重要だと思う」と回答した人は85.4％と大多数を占める結果となりました。一方で、「部門間コミュニケーションを充分に取れている」と回答した人は48.0％と、半数以下に留まりました。

業務面とコミュニケーション面のどちらにおいても、多くの人が「他部門とのかかわり」を重要なものだと考えている一方で、実際に「充分なコミュニケーションを取れている」と感じている人は半数に満たないことがわかりました。

あなたの職場では、
社内コミュニケーション促進のためどのような取り組みを行っていますか。

（n=500／複数回答）

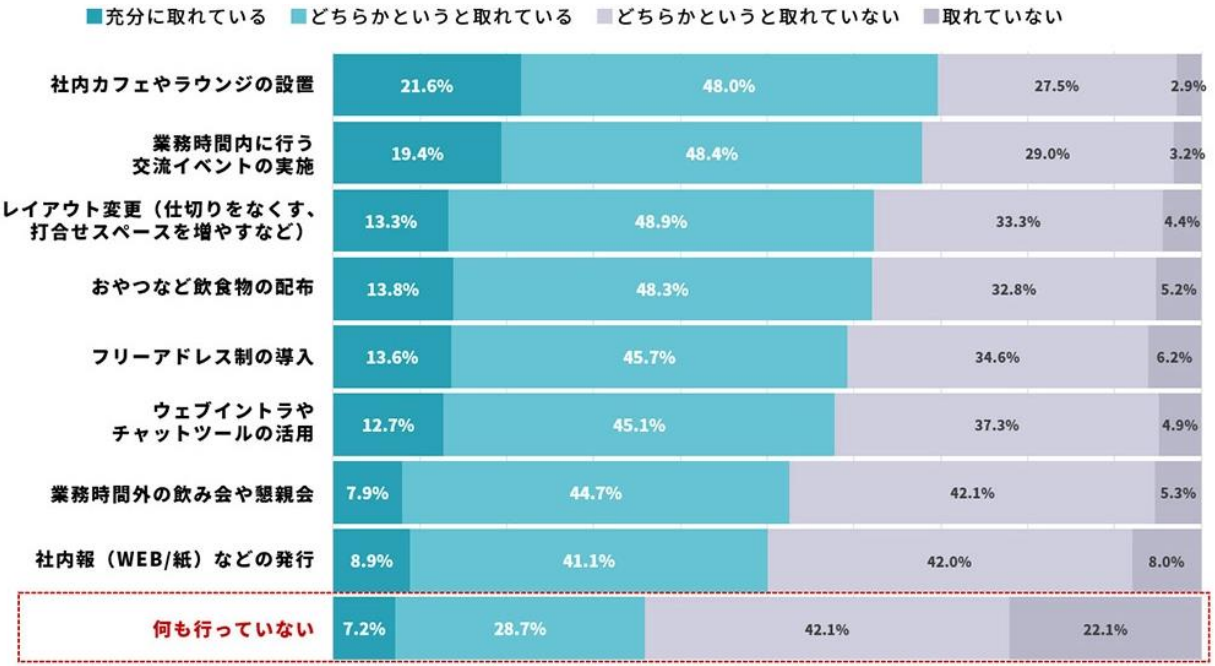


結果は「何も行っていない」が39％で最も高く、次いで「業務時間外の飲み会や懇親会」、「社内報（WEB/紙）などの発行」と続きました。

4割近くの回答者が「何も行っていない」という回答でした。それ以外の回答は票が分散しており、大きな開きはありませんでしたが、コロナ禍が収まり「業務時間外の飲み会や懇親会」が戻ってきた企業が多いと予想できます。

「職場で行われている社内コミュニケーション促進の取り組み」
×
「部門間コミュニケーションが充分に取れていると思うか」

（n=500）



「取れている」の合計値（青色部分）上位3つは「社内カフェやラウンジの設置」「業務時間内に行う交流イベントの実施」「レイアウト変更」でした。「何も行っていない」を選択した人は、他と比べ「コミュニケーションが取れている」と感じる割合が低いことがわかりました。

また、前問で順位の高かった「社内報（WEB/紙）などの発行」はここでは低くなっています。ただし「何も行っていない」と差があることを見ても効果は出ており、単体で部門間コミュニケーションに直接発展させることは難しくとも、他の施策と組み合わせることで効果を発揮すると考えられます。

充分な部門間コミュニケーションを取れていない理由は何だと思いますか。（フリー回答）

■リアル（対面）で会う機会が減少しているから

「**在宅勤務中心**となり、コミュニケーションが取りにくくなっているため」「**テレワーク、フルフレックス導入**によるリアルコミュニケーション機会の低下」

■業務が忙しく時間が取れないから

「タスクが多く、**自分のことで精一杯**で何も余裕がない」

■スペースがないから

「**交流するような**スペースがない」

■組織や業務内容によって生じる隔たりがあるから

「やはり**組織の壁**と言うのが存在しており、無意識のうちに行動に出ていると思われます」

■フリーアドレス制の導入企業、未導入企業それぞれの課題

「いろいろな部屋にフリーアドレススペースがあるため、**相手がどこで仕事をしているのか把握しづらく**、なかなか会えないから」

「フリーアドレス制ではないので、**部内の決まった人としか話す機会がない**。懇親会があっても年に1回程度で結局知っている人としか話さないから」

■現行の施策に加えて「もう一歩進んだ取り組み」が必要という意見

「**その場限りの会話になってしまう**から」「休憩スペースやビールサーバーなどはあるが、**狭い**。懇親会はあるが**少ない**」

何らかの社内コミュニケーション促進の取り組みを行っているにもかかわらず、部門間コミュニケーションを充分に「取れていない」「どちらかというと取れていない」と回答した人を対象に理由を尋ねました。フリーアドレス制について、導入企業と未導入企業、両方からの声が寄せられ印象的でした。フリーアドレス制を導入する際には、「誰がどこにいるか」を見える化するための仕組みや運用方法とセットで検討する必要がありそうです。 また、現行の施策に加えて「もう一歩進んだ取り組みが必要」という意見も多く集まりました。施策を導入するだけではなく、どう活用すれば良いかを従業員に示すことが重要と考えられます。

Theme 「今年の忘年会の予定」

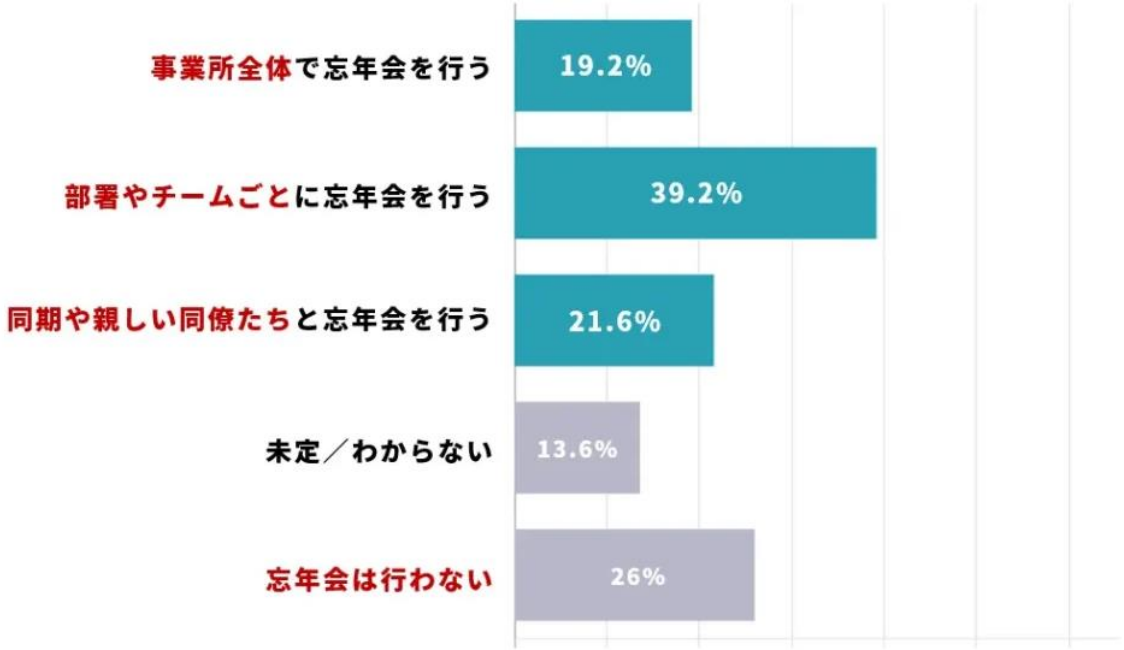
皆さんの職場では、今年、「忘年会」を行う予定はありますか？
コロナ禍による制限が明け、数年ぶりに気兼ねなく忘年会ができる、という方も多いのではないでしょうか。

オフィスワーカー500名を対象に「今年の忘年会の予定」や「忘年会に参加したいと思うか」を尋ねるアンケート調査を実施。併せて、忘年会に参加する前後で気持ちの変化があるかなどを調べました。

[アンケート実施情報]
方法：インターネット調査
回収日： 2023年12月6日
対象：日本全国のデスクワークが中心の会社員・公務員（フルリモートワークを除く）
サンプル数：500人

あなたの職場では今年（2023年）、忘年会を行う予定はありますか。

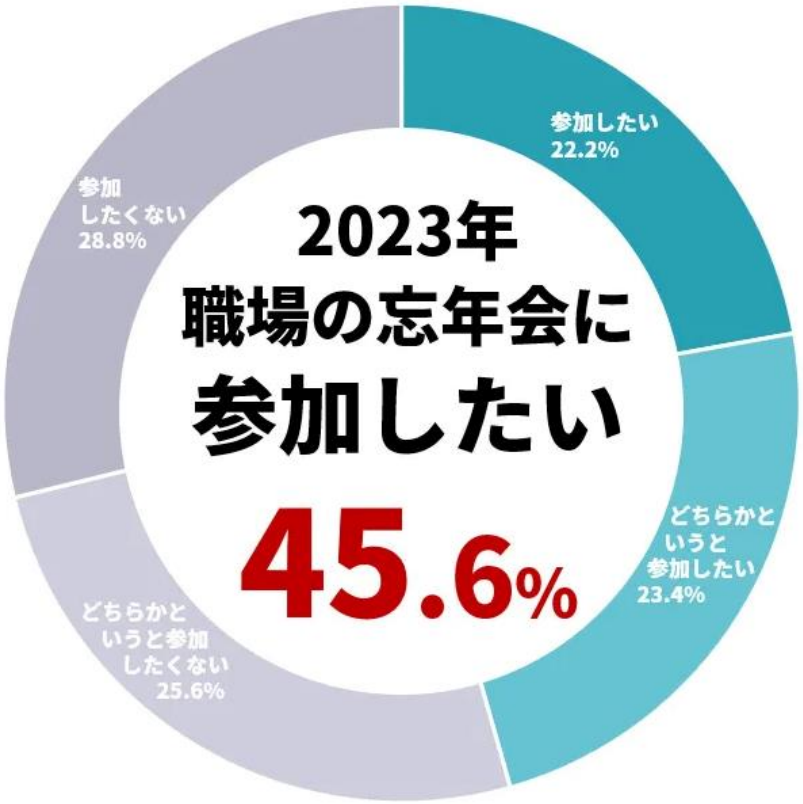
（n=500／複数回答）



「未定／わからない」「忘年会は行わない」を選択した場合は他の項目を選べなくなる複数回答形式で質問したところ、「忘年会は行わない」が26%、「未定／わからない」が13.6%。残りの60.4%の人は、職場の誰かと忘年会を行う予定がある、という結果となりました。

あなたは、職場の忘年会に参加したいと思いますか。

（n=500）



45.6 %

職場の忘年会に参加したいと思うかを尋ねたところ、「参加したい」「どちらかというと参加したい」と回答した人は45.6%、「参加したくない」「どちらかというと参加したくない」と回答した人は54.4%という結果になりました。

忘年会への参加意欲を尋ねたところ、「参加したくない」が「参加したい」をやや上回る結果となりましたが、割合はほぼ半々となりました。どちらかが優勢ということはなく、前向きな人とそうでない人、それぞれ一定数いるようです。

Q 忘年会に「参加したい」または「参加したくない」とお答えになった理由を教えてください。

■「参加したい」人からのコメント（一部抜粋）

「最近、**宴会の機会が全くなくなってしまった**ので、たまには参加したいと思いました」

「在宅勤務がメインになり、**全員で顔を合わせる**ことが無くなったので」

「年に一度、**他部署との交流**を行えるため、是非参加したい」

「今後一緒に仕事するかもしれない相手との**円滑なコミュニケーション**をはかるため」

「**お酒の席は、皆雰囲気変わって楽しくなる！**そしてやはり飲みの場は上司と関わる上で必要かなと私は思う」

■「参加したくない」人からのコメント（一部抜粋）

「**プライベートを優先したい**から」

「職場とプライベートの付き合いは**完全に分けたい**から」

「**お酒を飲まない**ので、料理を食べ終わると退屈で仕方ない。早く帰りたいと思う」

「その場では盛り上がっても数日経てば**挨拶する程度の仲にしかならない**と思うから」

「忘年会も**仕事のうち**だと思うとしんどい。話したい事ない。家でゆっくりしたい」

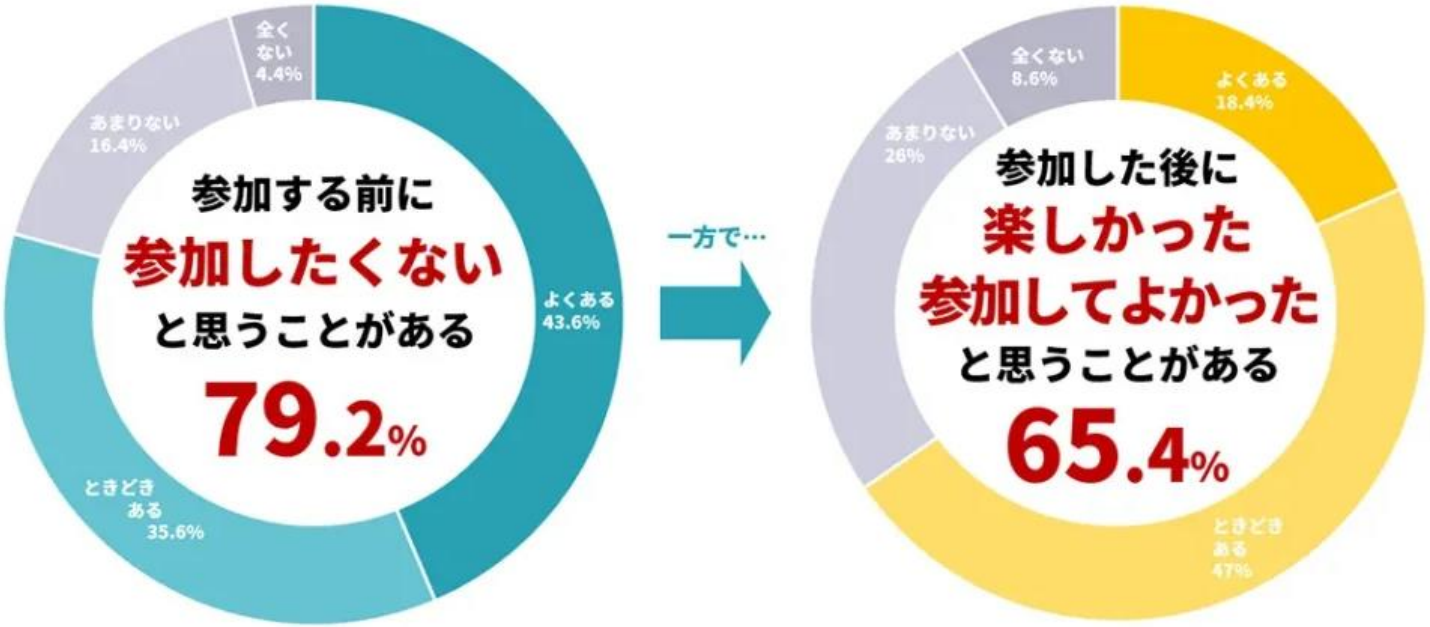
「個性が強い人が多くかえって気を遣い**疲れる** 」

「参加したい」人からのコメントには、コミュニケーション や 他部署との交流 、 お酒が入ることで同僚の別の顔を見られることが楽しい 、といった声が寄せられました。

対して「参加したくない」人からのコメントには、 プライベートとは切り分けたい 、 仕事の延長のようで疲れる 、 お酒を飲めないので気を遣うだけで終わる 、といった声が集まりました。

あなたは、職場の飲み会や懇親会に参加する前、「面倒だ」「参加したくない」と思うことはありますか。また、実際参加した後に「（思ったよりも）楽しかった」「参加してよかった」と思うことはありますか

（n=500）

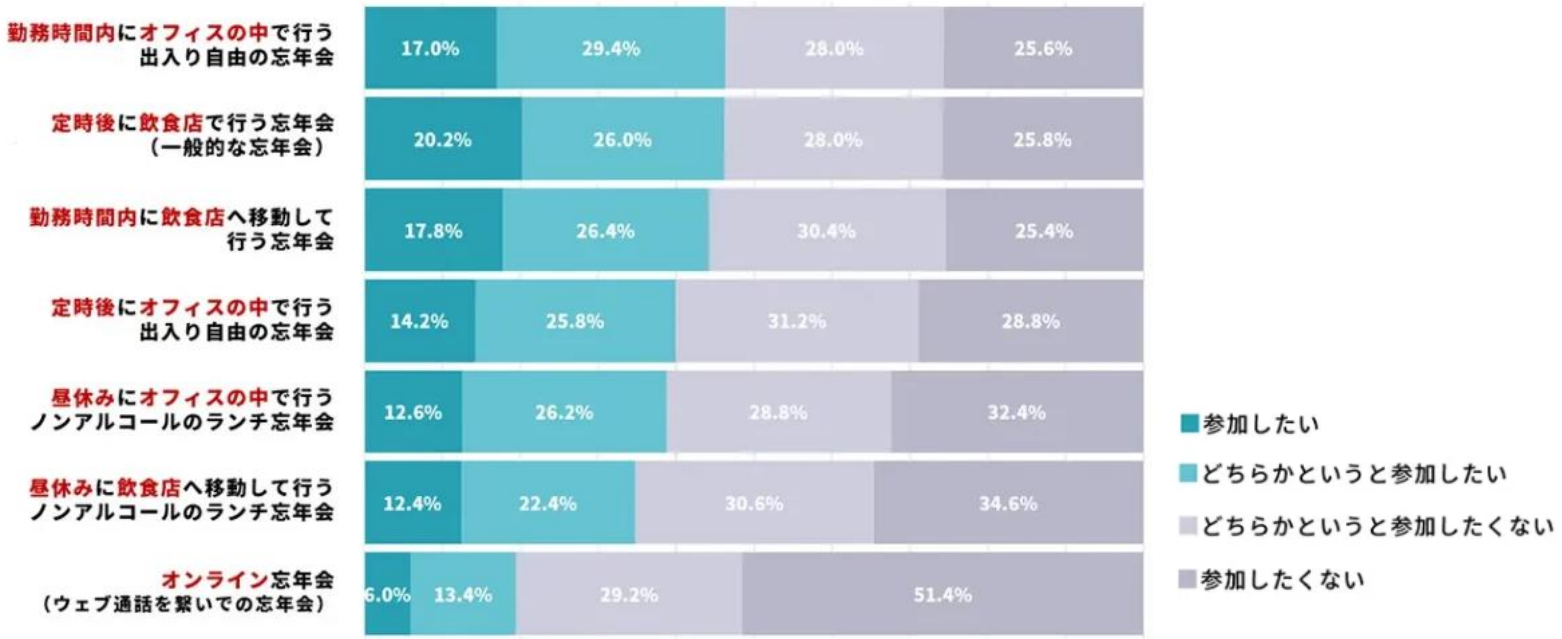


参加する前に「面倒だ」「参加したくない」と思うことがあると回答した人は79.２％と高い結果に。一方で、参加した後に「（思ったよりも）楽しかった」「参加してよかった」と感じる人が65.4％いることがわかりました。

8割近くの回答者が、参加前は「参加したくない」と思っている一方で、実際に参加すると「参加してよかった」と感じる人が7割近くもいるようです。面倒だと感じても、まずは参加してみることが大切かもしれませんね。

あなたは、以下のような忘年会の形式について、どのくらい「参加してみたい」と思いますか。

（n=500）



「勤務時間内にオフィスの中」が最も高く、次に「定時後に飲食店」「勤務時間内に飲食店」と続きました。前問で「実際に参加すると『楽しかった』『参加してよかった』と感じる」と答えた人が多かったことから、忘年会に参加する前の気持ちの面でのハードルを下げることが効果的と考えられます。

「参加してみたい」と感じる開催形式を尋ねたところ、大きな差異はなく、横並びの結果に。昨今、ランチ忘年会やオフィス内ラウンジで行う忘年会などが先進的な企業の取り組みとして話題にあがっていますが、社内にスペースがない企業もまだ多く、イメージが付きづらかったのではないか、と考えられます。